

平成20年版労働経済の分析(「労働経済白書」)のポイント

分析テーマ:働く人の意識と雇用管理の動向

「働く人の意識と雇用管理の動向」を分析テーマとし、働きがいのある社会の実現に向けた課題を検討。

取り組むべき課題として、

- ・ 正規雇用化に向けた支援など働くことを希望する人々に対する雇用機会の確保、
- ・ 高い意欲の発揮と職業能力の開発に向けた適切な雇用管理の実現、
- ・ 高度な産業構造の実現に向けた総合的な取組など、を指摘。

第1章 労働経済の推移と特徴

変化する経済環境と勤労者生活の充実にに向けた課題を分析

我が国経済は、2008年に入り景気回復は足踏み。新規学卒者の就職状況は改善しているが、小規模事業所での賃金低下は継続。

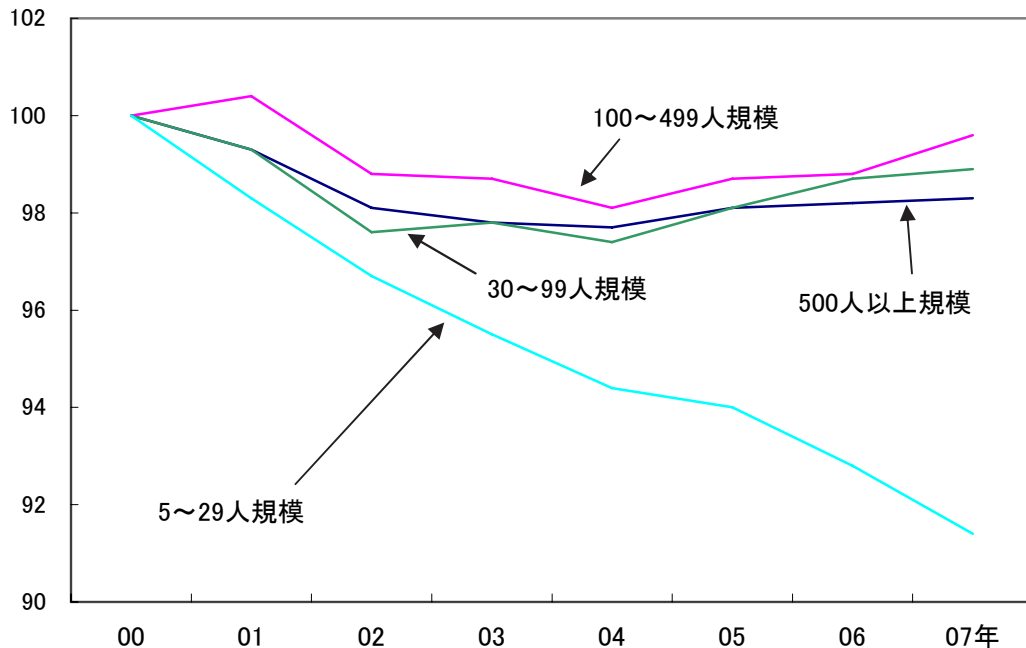
持続的な
経済発展
に向けて

賃金は低下し消費支出も力強さを欠く中で、経済回復を着実なものとし、その成果を雇用の拡大、賃金の上昇、労働時間の短縮へとバランス良く配分することによって勤労者生活を充実させ、持続的な経済発展を実現することが重要。

事業所規模別所定内給与の推移

- 今回の景気回復過程全般を通じて小規模事業所での賃金低下が大きい。
- 経済成長の成果は、今回の景気回復過程において勤労者生活に十分行きわたっていない。

(2000年=100.0)



資料出所 厚生労働省「毎月勤労統計調査」

第2章 働く人の意識と就業行動

働く人々の意識と仕事に対する満足感について分析

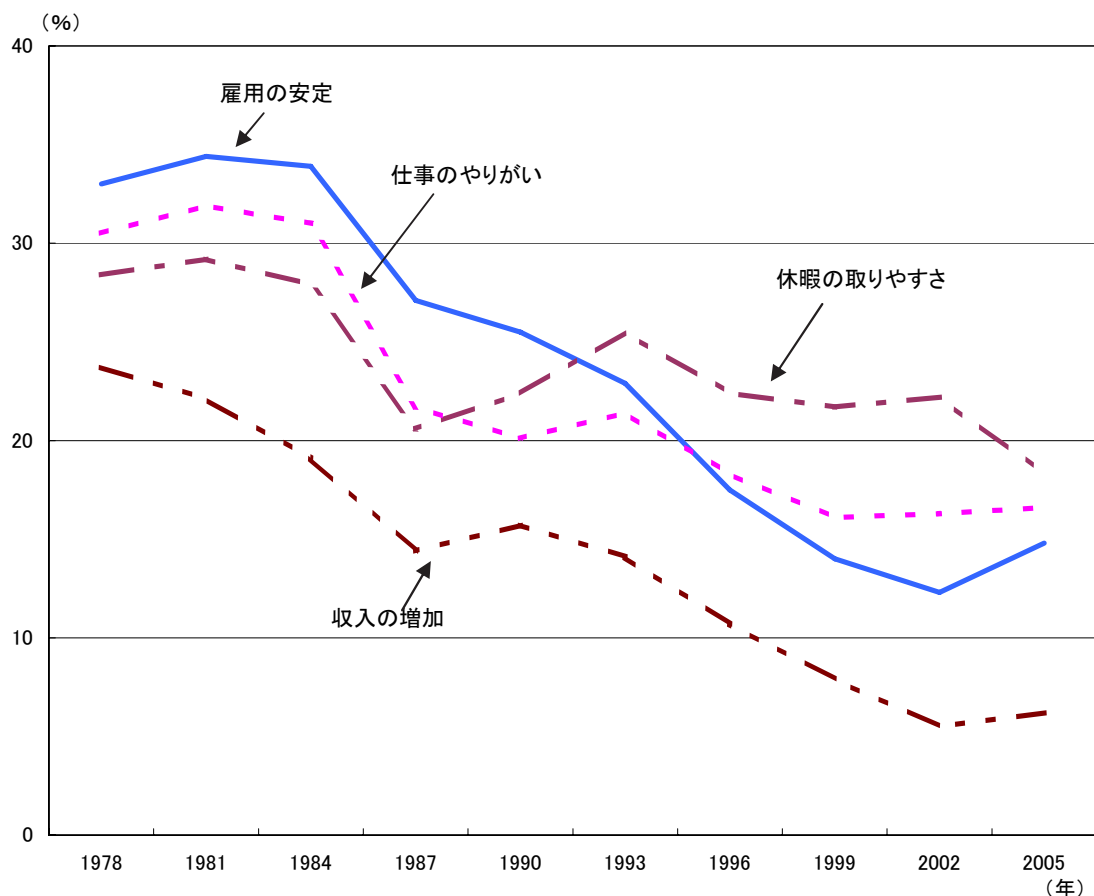
1990年代以降、就業形態や賃金制度は大きく変化し、正規以外の従業員が増加するとともに、業績成果主義的賃金制度も拡大。企業の経営環境が厳しかったことから企業の対応は人件費抑制的な視点に傾きがちで、労働者の満足感は長期的に低下。

働く人の
意欲の発
揮に向け
て

正規従業員として就職したいと思っている人々の正規雇用化に取り組むとともに、就業形態間の均衡処遇を着実に推進。また、業績成果主義的賃金制度を有効に機能させるために評価基準の明確化、評価結果の説明なども企業の課題に。

仕事の満足度の推移

- 仕事に関する満足感は、1990年代には、すべての項目で悪化。特に、雇用の安定に対する満足感は大きく低下。
- 近年は景気回復のもとで、雇用の安定に対する満足感は改善したが、収入の増加や仕事のやりがいに対する満足感の改善は小さく、休暇の取りやすさに対する満足感は、むしろ悪化。



資料出所 内閣府「国民生活選好度調査」より作成

第3章 雇用管理の動向と課題

産業構造の高度化に向けた企業経営と雇用管理の課題を分析

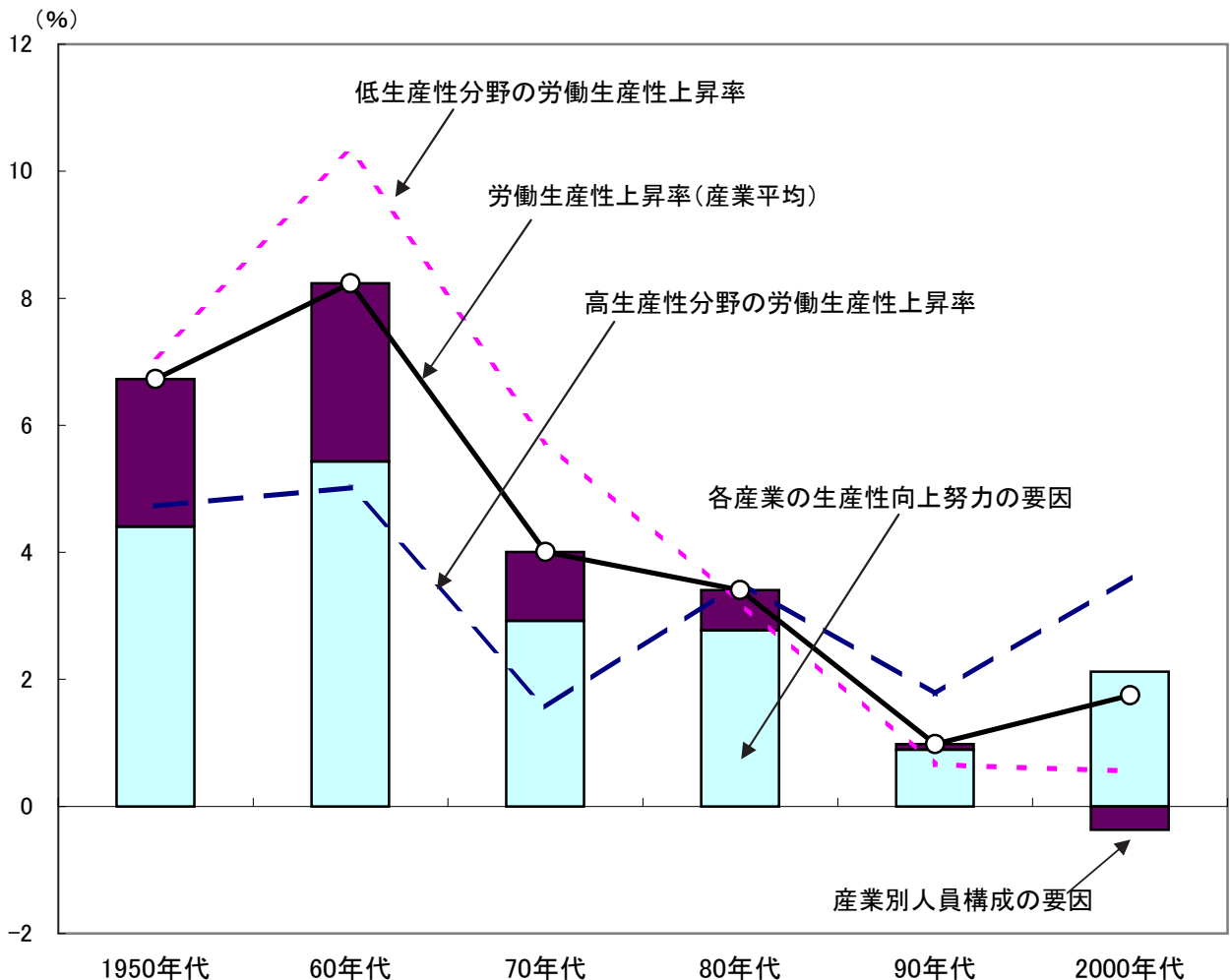
労働力配置の観点から見た産業構造の高度化の動きは停滞。製造業など高生産性分野では人員が削減される一方、サービス業、小売業などでは正規以外の従業員が増加。生産性の低い産業分野に労働力が集中する傾向。

産業構造の高度化に向けて

着実な労働生産性の向上に裏付けられた所得の拡大と雇用の質の向上が課題。長期的な視点に立った計画的な採用、配置、育成を通じて企業に人材を蓄積していくことで、労働生産性の向上と人々の働きがいとともに実現することが重要。

産業構造の変化と労働生産性

- 我が国の労働生産性は、2000年代に入って伸びを高めているが、製造業などの高生産性分野の生産性向上に牽引されたもので、サービス業、卸売・小売業などの低生産性分野の生産性は停滞。
- 産業構造の変化をみると、1990年代までは、生産性の高い分野に人材が集まり、産業構造の変化自体が社会全体の生産性を高める方向に作用していたが、2000年代に逆転し、生産性の低い分野に労働力が集中する傾向。
- 長期的な視点に立った計画的な採用、配置、育成によって企業に人材を蓄積し、付加価値創造能力を高め、労働生産性の向上と人々の働きがいとともに実現することが重要。



資料出所: 内閣府経済社会総合研究所「国民経済計算」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて推計